

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界のひと々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一タライによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

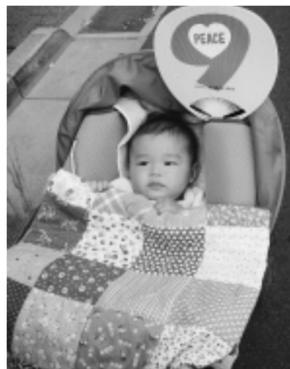
# YWCA 6

JUN. 2007

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp



## ぼくたちのために 9条を守って!



5・3憲法集会にて(3面に関連記事)

## ひろしまを考える旅2007 参加者募集のお知らせ 3面

### オススメの1冊 勝 美恵

数年前に大阪YWCAの講座で出会った、開発教育を英語で教えておられるK先生は多くのよい刺激を与えてくださる。紹介する本もその一つだ。セヴァン・カリス・スズキ著「あなたが世界を変える日」(学陽書房刊)。1992年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた地球環境サミットでのセヴァンの6分間のスピーチが日本語訳と共に載っている。小学生から読める本だ。なにしろ12歳の少女が書いたのだから。

多くの方がすでにご存知のことだろう。しかし知っているも読むことをお勧めしたい。なんとなく活動に行きつづまっていたり、疲れているとき読み返すと新しい気持ちになれる。彼女は大人に問いかけている。

You teach us... not to fight with others, to work things out, to respect others, to clean up our mess, not to hurt other creatures, to share, not be greedy. Then why do you go out and do the things you tell us not to do?

(あなたたち大人は私たち子どもに、世の中でどうふるまうかを教えてくれます。争いしないこと、話しあいで解決してください、他人を尊重すること、ちらかしたら自分がかたつけること、ほかの生き物をむやみに傷つけないこと、わかちあうこと、欲ばらないこと。ならばなぜ、あなたたちは私たちにそんなことをしているんですか?)

素直な響りのない視点で世界を見る12歳の彼女に尊敬を覚えた。彼女の言っていることは決して特別なことではない。そしてそれはYWCAの主張と重なる。社会を変えていくのは彼女のように普通の人が声を上げ、その力が結実することだと思っ。それはYWCAの姿そのものだ。

親しい全員さんにごの本を貸したところ、委員会の感謝でこの本のことを話したそうだ。すると他の委員さんから読んでみたいと声が上がったという。大好きな本がこうやって広まるのはとてもうれしい。

今総会期、常任委員を務めさせていただくこととなった。一体なにができるのか自分に問い続けているが、この本の12歳の少女のように正しいと思っったことを率直に言える人間であり続けたい。

(日本YWCA常任委員 勝 美恵)

## 特集

# HIV/AIDSに挑む 世界のYWCAの女性たち

7月にケニアで開催されるYWCA世界総会に併せて、HIV/AIDSをテーマに国際女性サミット (IWS) が開催されます。今月号はHIV/AIDSについて特集します。

とその実績が報告され、世界で高い評価を得てきている。それでもまだ道は遠い。([コモン・コンサーン]より)

HIV/AIDSは大半の感染経路が人の性的接触によるものであり、また感染後症状が現れるまでの期間が長く気づきにくいことが、感染の拡大を防ぐことを困難にしている。性を語ることをタブーとする文化、汚名や差別につながる無知や偏見、罪や罰とみなす風潮が病気を隠蔽させ、感染者を苦しめ、家庭やコミュニティを破壊していく。特に貧困やジェンダー差別、パートナーや近親者らからの暴力の犠牲者である女性や少女たちは強いられた性による感染の危険が大きい。一方先進国での若年層の感染者増の背景には、自己尊重感や人間関係の希薄化に反比例する性的ネットワークの広がりと性の無防備化などが見られる。共通するのは、互いを生かす合う良きパートナー関係を結ぶ力を奪う要因が社会に存在しているということである。

自分と他者の尊重、正しい情報と知識をもつこと、社会にある偏見の壁を打ち破り当事者の声に耳を傾けること、女性への経済・身体・精神的暴力にNOということ、ジェンダーに縛られないこと、教育や職業の機会が保証されること、こうしたことを求めながらHIV/AIDSの問題に取り組むことは、世界のYWCAの女性たちのリーダーシップを強め、女性や少女たちのエンパワーメントの機会となり、社会の変革につながっていくことだろう。

7月ナイロビでYWCA世界総会に併せて開催されるIWS (国際女性サミット) のテーマは「HIV/AIDSに挑む女性のリーダーシップ」である。当事者女性たちも含め約1500人が知恵と力を結集して臨む。変革への道を私たちも共に歩みだそう。

国際コミュニケーションチーム担当常任委員 俵恭子



—196°Cの世界 (2006.9.9)

## 松山 YWCA

### キララ理科実験工作教室

### 小柴昌俊科学教育賞受賞!

キララ理科実験工作教室が3月、新しい発想に満ちた理科教育プログラムを開発・実践して著しい教育効果を受けた団体・個人に贈られる、第3回小柴昌俊科学教育賞(財)・平成基礎科学財団)優秀賞を受賞しました。

「へえすごい!」そうだったんだ。僕が、「キララ理科実験工作教室」に初めて参加したのは、5年前の小学3年生の時でした。当時の僕は、理科が特別好きだというわけではありませんでした。が、友達に誘われたことがきっかけでした。その時は、まさかこんなに長い間「キララ」に携わることになるとは、思ってもいませんでした。「キララ」は、何より理科が大好きな人たちの時間です。いつも藤井先生自身も楽しそうにいろんな実験をしてくださって、僕らに何かを強制するということではなく、まだ知らない理

科の世界へと薄いてくれます。「へえすごい!」そうだったんだ」の繰り返しで、今ではすっかり理科に深い関心を持ってしまった僕は、中学でも理科部に在籍し、今でも「キララ」で、先生の手伝いをさせてもらっています。小柴昌俊科学教育賞で、「キララ」が優秀賞に選ばれたのは、僕にとって貴重な体験と喜びでした。小柴さんと審査員の先生方と一緒に撮った記念写真も、僕の宝物で、今後の大きな勇気となってくれたいと思います。矢野豊平(中2)

初めは「飛ぶ」だったので、スパーモービルの工作は小3の息子にとって難しいものでした。あれから3年、一番面白かった工作は「静電気を起こして飛ばそう」の圧電素子を使っのミニ雷作りだったらしい。工作物は、自宅に持ち帰った後もしばらく動かし、最近では

改造もしているようです。一番楽しかった実験は「マイナス196°Cの世界」で、窒素が見えなくても存在するという不思議さが興味深かったでしょう。最も心に残る講座を聞くと「昨年夏の「もしも原子が見えたなら」だと即答でした。中学生向けの内容であって小4男子の理解と感動があったようです。先日、東京での「小柴昌俊科学教育賞」選考会と表彰式に参加できたことも印象深かったに違いありません。最終選考は全国の応募者から残っただけあったれども感心するものばかり。その中で1点、優秀賞を贈られた瞬間の驚きは忘れたいものです。応援に駆けつけた関係者一同手を取り合い喜びを分かち合いました。小6の現在はボランティアの立場で参加していますが、話を聞いての成長が感じられ頼もしく思います。キララのような地域の教室は他校生の友達ができたり、学年を超えた実験や

「協力ありがとう!」と、いいます。 蔵本治子、岡野英和子、三股まさ子、角田健、武内重代、俵恭子、広島YWCA 香川博司、竹田とし子、平和教育基金、俣野尚子、武内重代

改進もしているようです。一番楽しかった実験は「マイナス196°Cの世界」で、窒素が見えなくても存在するという不思議さが興味深かったでしょう。最も心に残る講座を聞くと「昨年夏の「もしも原子が見えたなら」だと即答でした。中学生向けの内容であって小4男子の理解と感動があったようです。先日、東京での「小柴昌俊科学教育賞」選考会と表彰式に参加できたことも印象深かったに違いありません。最終選考は全国の応募者から残っただけあったれども感心するものばかり。その中で1点、優秀賞を贈られた瞬間の驚きは忘れたいものです。応援に駆けつけた関係者一同手を取り合い喜びを分かち合いました。小6の現在はボランティアの立場で参加していますが、話を聞いての成長が感じられ頼もしく思います。キララのような地域の教室は他校生の友達ができたり、学年を超えた実験や

改進もしているようです。一番楽しかった実験は「マイナス196°Cの世界」で、窒素が見えなくても存在するという不思議さが興味深かったでしょう。最も心に残る講座を聞くと「昨年夏の「もしも原子が見えたなら」だと即答でした。中学生向けの内容であって小4男子の理解と感動があったようです。先日、東京での「小柴昌俊科学教育賞」選考会と表彰式に参加できたことも印象深かったに違いありません。最終選考は全国の応募者から残っただけあったれども感心するものばかり。その中で1点、優秀賞を贈られた瞬間の驚きは忘れたいものです。応援に駆けつけた関係者一同手を取り合い喜びを分かち合いました。小6の現在はボランティアの立場で参加していますが、話を聞いての成長が感じられ頼もしく思います。キララのような地域の教室は他校生の友達ができたり、学年を超えた実験や

「協力ありがとう!」と、いいます。 蔵本治子、岡野英和子、三股まさ子、角田健、武内重代、俵恭子、広島YWCA 香川博司、竹田とし子、平和教育基金、俣野尚子、武内重代

訂正 5月号2面「中央委員会のお知らせ」の中で、「寄付行為」は「寄附行為」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

## AROUND THE GLOBE 今、地球上で



今年7月に開催される4年に1度の世界総会は、ケニアで開催されます。世界総会と国際女性サミット (IWS) の開催を支えるケニアYWCAの活動を紹介します。

### ケニアの女性の生活を変革する —ケニアYWCA

1912年以来、ケニアYWCAは女性と少女の生活の変革に大きな役割を果たしてきました。ケニアで最も古い女性団体であるYWCAは、7つの支部を展開し、女性器切除 (FGM) やHIV/AIDSといった極めて重大な問題に取り組んでいます。

ケニアでは2002年にFGMが禁止されたにもかかわらず、地域によっては今でも行われています。一部の女性とはいえ、女性自身が、少女から大人の女性になる通過儀礼としてそれを支持している現状では、その慣習を根絶させるのは非常に難しいことです。ケニアYWCAは、少女のために「新しい成人儀式 "Alternative rights of Passage"」を広めることで、FGMの廃絶に取り組んでいます。

キジー、メルー、カジドなど施行率の高い地域では、少女、少年、親、先生、コミュニティのオピニオン・リーダーの関心を高めるために、情報・教育・コミュニケーション (IEC) を戦略的に組み合わせたプログラムを実施しています。「新しい成人儀式」プログラムでは9歳から18歳の少女を対象に、健康と自己尊重について教育しています。修了者は地方自治体の卒業式で成人と認定され、修了証書が与えられます。現在までに800人がこのプログラムに参加しました。

HIV/AIDSもケニアの女性と少女に深刻な影響を与えています。YWCAでは感染防止対策プログラムを作成し、各支部で実施して成功を収めています。また他の団体の協力を得て、HIV/AIDSに関するピア教育でゲーム感覚で使用できる活動キットを作成しました。アフリカの文化に配慮し、若者向けに作成されたハンドブックは、全国の若者にHIV/AIDSについての知識と、感染を防止する方法を教えるために使用されています。

またYWCAは、AIDSで親を亡くした子どもたちのための援助プログラムを行い、教育やトレーニングの機会を与えています。すでに、1500人の子どもたちがプログラムを卒業し、1999年の開始以来6000人以上の子どもが、教育費の援助・学用品の支給・中途退学者向け職業訓練などの支援を受けています。 ([コモンコンサーン] 131号より)

特集 HIV/AIDS

ひとりぼっちじゃないよ!

— 京都YWCA・PANの活動を通して

京都YWCAでは、1993年に「できることをできる人から始めよう」を合い言葉に女性...

サポーター活動を通して投げかけられた、医療や福祉の問題、医師と患者の関係、親子や夫婦・家族の人間関係の問題を...

今も「ひとりぼっちじゃないよ」のメッセージを込めて配食サービスを続けています。HIVに感染した人だけでなく、高齢の方や、病気の方がおられる家庭にもサービスを広げたい...

私の名前はトゥウィリカ・ヘイタといいます。ナミビア出身の20歳です。私の一番上の姉は2002年、AIDSで亡くなりました。

家に帰れなくなりましたが、家にいるときは姉が栄養を摂り、時間どおりに薬を飲んでくれるかいつも気にしていました。私は姉と一緒に祈り、歌い、姉が私にとってどれほど大切かを伝えようと思いました。

家に帰れなくなりましたが、家にいるときは姉が栄養を摂り、時間どおりに薬を飲んでくれるかいつも気にしていました。私は姉と一緒に祈り、歌い、姉が私にとってどれほど大切かを伝えようと思いました。



TAKE ACTION: WORLD YWCA IS USING STRATEGY, WOMEN AND AIDS

1994年4月から、共に生きる社会の実現をめざす「若者・女性とHIV/AIDSプロジェクト」として新たにスタートし、女性のための電話相談...

日本では、先進国の中で唯一感染者が増加している国と指摘されています。2006年度、日本ではHIV感染者914人、AIDS患者390人が新たに確認されています...

ある日、近所の人々が私を呼びにきました。姉は、病院で私に会いたがっていました。「トゥウィリカ、いい子にしているよ。私のようにするのはだめ。身体を気をつけてね。私はHIV/AIDSにかかっているの。神

家はあなたと共にいてくださるわ。息子をお願いね。愛しているわ。妹たちにも愛しているって伝えて。そう言ってくれたらいいわ。私は姉の死に大きなショックを受けました。姉の言葉が頭から離れませんでした。私は、姉の死の1年前から、若者がHIV/AIDSについて相談することができず、若者がHIV/AIDSについて相談することができず、若者がHIV/AIDSについて相談することができず...

働きのするために、私はYWCAなどの施設で「コンピュータの利用法やカウンセリング・スキル、ピア教育の方法を学びました。このようなトレーニングを経て、現在、ナミビア・ユース協議会の地域向けユース新聞のレイアウトを担当したり、国中から寄せられる若者からの手紙の相談に応えたり、学校でのピア教育のファシリテーターとしても活動しています。

身近な人に伝えよう!

「憲法改正のための国民投票法案」が5月14日、与党による強行採決で成立しました。今後国会に「憲法審査会」が設置され、本格的な改憲案作り着手...



約7000人が、平和憲法の大切さをアピールした5・3銀座パレード。YWCAからも50人以上が参加。

My Story Her Story



私は、2年前に札幌YWCAの会員になりました。札幌YWCAのボランティアカフェ「Y's cafe」でなんとなく楽しからずかボランティアを始め、なんとなく何かがしたくて会員になりました...

私が世の中のいろいろな問題について真剣に考えるようになったきっかけは、2005年の100周年記念国際平和プログラム「ひろしまを考える旅」に参加したことでした。このときも旅行気分...

札幌YWCA 菅原知未

ひろしまを考える旅2007へのお誘い

テーマ：一人ひとりが大切にされる世界を—ヒロシマから— 期間：2007年8月9日(木)～12日(日)【3泊4日】 ※2泊3日の場合は11日で終了 ※現地集合・解散 会場・宿泊：広島市国際青年会館 (アステールプラザ) プログラム：★浅井基文さん (広島市平和研究所所長) のお話

- ★平和資料館見学
★碑めぐり
★フィールドワーク (広島市内を歩く・韓国人被爆者について考える・広島を歩く・岩国を訪ねる)
★ディスカッション
★ワークショップ (3泊4日の参加者のみ)
★観光 (3泊4日の参加者のみ) (世界遺産 宮島・歴史の街 尾道)

費用：中学生・高校生【2泊3日】18,500円 【3泊4日】26,500円 大学生・大学院生【3泊4日】30,500円 一般【3泊4日】33,500円 申込締切：第1次 6月29日(金) / 第2次 7月13日(金) お問い合わせ・お申込：日本YWCA (担当：東) Tel: 03-3264-0661 Fax:03-3264-0663 E-mail: office-japan@ywca.or.jp \*インターンやボランティアも募集中です。詳しくはHPをご覧ください。

種

愛は決して減びない

(「コリントの信徒への手紙」第8節)

内気で何か心に不安があるのでしよう。校門の前で泣き出しそうに父親を振り返っている子どもがいます。ひとりで子育てしてきた若い父が声をかけています。「行っておいで」「love you」青年期にさしかかったジョニーは、貧富や人種による差別のなかで、ついついもたもた突き上げてくる暗い衝動と格闘しています。ハラハラと見守るだけの母親は、そんな息子の背中へ向かって祈るよう呼びかけます。「love you」理想に燃えて自分の道を行って来た妻は病に倒れ、どん底の挫折のなかに向かっています。出来る限りのサポートをして見守って来た夫は、もっ一度立ち上がりつとる妻へ向かって言います。「love you」

米国での暮らしのなかで、「アイラブユー」がラブ・ロマンスの世界だけの言葉ではないことに改めて気づかされてきました。こんな時に日本語で言葉をかけるとすれば、さしずめ「がんばれ」でしょうか? でも、もしも自分の弱さと醜さに打ちのめされている時、神さまからのメッセージが「がんばれ!」だったとしたら...

「あなたをそのままに受けとめ、どんな時にもそばにいるよ」と伝える美しい言葉は、それこそ私たちも見つけないと願うのです。 寺嶋公子(常任委員・東京YWCA会会長)

中高YWCA紹介

プール学院中学校高等学校YWCA

私たちの学校のYWCA部では、ボランティア活動として、定期的に老人ホーム(特別養護老人ホーム「博愛の園」)訪問と、障がいのある人が多く働いている共働作業所「コサリ」のパンやクッキーを学校で売る、出張販売のお手伝いをしています。クラブのボランティア活動を通して初めてのこともいろいろ体験しました。

特に老人ホームは、それまで行ったことのない場所だったので、驚くこともありました。老人ホームでは喫茶のコーナーでコーヒーの準備をしたり、入居者の方を部屋まで迎えに行ったりしています。時間の大半は、コーヒーを飲みに来てくださった方とお話をすることで占められています。毎回のように来てくださる方もいて、行くたびに優しく受け入れてもらっています。初めての時は自分で大丈夫か心配しながら行っていたけれど、今では「ボランティアに行く」という感覚もなく、楽しく交流しています。この活動で、いつもは絶対に会えないような人と会ってお話ができます。私たちのことを孫のように優しく接して下さり、戦争中の生活の話や若いころの趣味の話まで、いろいろ話してくださいませ。今までで教科書でしか知らなかったことを実際に体験した方から聞くのは貴重な体験だと思います。

そんな体験をしながら、中高いっしょになって普段はハンドベルをしながら楽しく活動しています。これからもカンファレンスなどで、今しかできない経験ができればと思います。

プール学院高等学校2年 長野さとみ



共働作業所「コサリ」のパン・クッキー販売会